

SDGs Students Dialogue 2026 (仮称)

(大学生を対象とする国際オンライン協働学習事業) / 令和8年度実施計画(案)



プログラム概要

- 日本の大学及び世界各国のユースが協働し、環境課題の解決策を共創するプログラム。 ※2025年度は大阪・関西万博において実施
- 参加者はグループ（日本人学生＋海外ユース）に分かれ、今年度は**ユース自身が取組課題を考案**し、プログラム中に民間企業（約5社）にメンター参加を依頼、提案を練る。
- **COIL** (Collaborative Online International Learning:オンライン国際協働学習) と **PBL** (Problem Based Learning:問題解決型学習) の教育手法を組み合わせて実施。
- 基本方針で重視する、国内外の多様な主体同士の対話と協働による学びとICTの活用を通じた学びの実践。
- 期間は約6～7か月に拡充（2025年度：約3～4か月）。2027年の年明けに**成果発表会**を開催予定。

環境課題の例 (ユース主導で設定)

- 国内外で異なる環境課題の解決に向けた**若者主導のアクション提案**
- 地域資源・地域課題を活かした**持続可能なライフスタイル・ビジネス提案**
- 気候変動・生物多様性の損失に対する**教育・行動変容プログラム**

スケジュール (予定)

5月～6月	6月～7月	7月～8月	9月～10月	10月～1月	1月～2月
参加者募集 ・国内大学 ・海外ユース	・チーム編成 ・プログラム準備	グループワーク期間 (約6～7か月)			成果発表
		チームで 課題検討	企業に 参加依頼	企業メンターと 提案作成	

事業イメージ (体制)

国内大学

1校約5名・ゼミ単位

海外ユース

UNU-IAS認定RCE拠点

企業メンター

プロジェクトのテーマに応じて個別にアプローチ

国際PBL (COIL × PBL) オンラインGW

PBL運営支援：受託事業者について調整中

募集対象 (令和8年度・予定)

参加大学

全国の大学・大学院 ※1校約5名 (ゼミ単位)
5校程度を想定

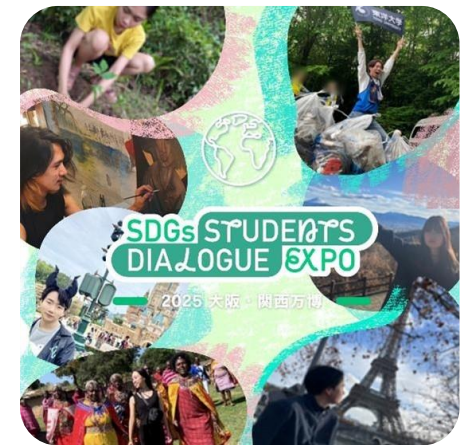
参加国

UNU-IAS認定 RCE拠点 約5拠点 (アジア太平洋・欧州・アフリカ)

【昨年度実績】SDGs Students Dialogue Expo 2025 (大学生を対象とする国際オンライン協働学習事業)



- 日本9大学及び世界6か国の学生等が協働し、企業が提示する日本の環境課題に対して解決策を提案するプログラム。
- 参加者はグループ（日本人学生＋海外学生）に別れて、5つの企業から与えられた**環境課題（ミッション）**に基づき、**環境課題を解決するためのアイデア創出**を行う。
- **COIL**（Collaborative Online International Learning：オンライン国際協働学習）と**PBL**（Problem Based Learning：問題解決型学習）の教育手法を組み合わせる実施。
- 基本方針で重視する、国内外の**多様な主体同士の対話と協働による学びとICTの活用を通じた学びの実践**。
- 9月4日・5日に2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）会場内のジュニアSDGsキャンプ（サステナドーム）及び配信にて発表。



事業イメージ



環境課題の例

- 国・世代・経済状況によって大きく異なる「行動レベル」について、**教育分野を通じたアプローチ方法**の模索
- **野生動物と共生できる解決策**を通して、地域の自然・経済・気候変動への対処法
- **環境配慮型商品の売上拡大策**

参加大学 北海道大学/ 千葉大学/ 神戸大学/ 立教大学/ 日本大学/ 東洋大学/ 芝浦工業大学/ 立命館大学 / 関西学院大学

参加国 大韓民国/ 中華人民共和国/ フィリピン共和国/ タイ王国/ インドネシア共和国/ カナダ

参加企業 株式会社アイ・グリッド・ソリューションズ/ フューチャーアーティザン株式会社/ 加山興業株式会社/ 一般社団法人サステナブル経営推進機構 (SuMPO)/ 三菱地所株式会社 (いずれも順不同)

最終発表の様子

